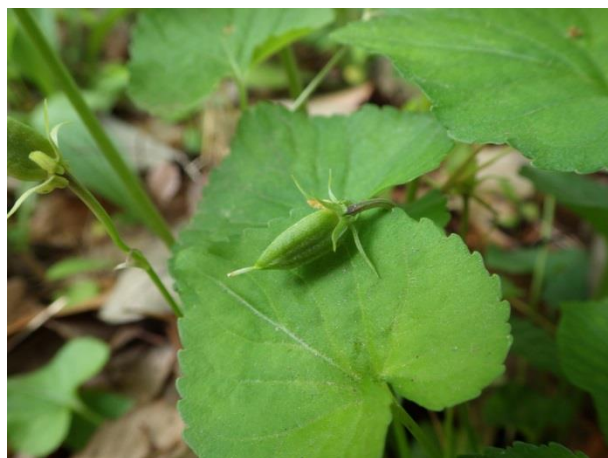


## 植物多様性センターの「タチツボスミレの二刀流」

タチツボスミレは雑木林や里地、里山でふつうに見られるスミレです。木々の葉が茂り暗くなった林床では、開放花の果実はすでにはじけて、閉鎖花の果実が膨らんできています。スミレの仲間は遺伝子の多様性を維持するための開放花の種子と、量を確保するための閉鎖花の種子の2通りの種子をつけます。斜面を薄紫色に染める大きな群落があるのも頷けますね。



開放花：早春の雑木林での開  
花 訪花昆虫により受粉される



開放花の果実：細長い蒴果は先  
端に柱頭をつけたまま成熟する



閉鎖花：ガクも小さく花弁もない  
閉じたまま自家受粉を行う



閉鎖花の果実：解放花の果実  
より短く先端に長い柱頭はない